

③「災害と企業ボランティア」セミナー

能登半島地震や東日本大震災を契機に、企業としての災害ボランティア活動への関心がさらに高まっていることから、県内企業を対象に、企業としてどんな活動ができるか、どんなことに注意しなければいけないかを紹介することで、災害ボランティア活動の普及と啓発を図るため、セミナーを開催しました。

開催日：平成27年6月24日（水）13：30～15：00

開催場所：石川県庁 11階 1102会議室

講演：

- (1) 「ボランティアに関する災害時の県の体制」
（公財）石川県県民ボランティアセンター 幹事 鈴木 隆
- (2) 「災害ボランティアについて」
日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー 北村 裕一氏
- (3) 「災害ボランティアの考え方」（社福）石川県社会福祉協議会 茂尾 亜紀氏
- (4) 「心のバリアフリー」 （株）Plumeria Heart 代表取締役 兼氏 浩子氏



【学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会】

複数の大学や団体に所属する講師によるこの事業の実施にあたり、事業内容の検討及び結果の検証などを行う組織として研究会を設けています。

【事業の成果】

東日本大震災から4年半以上の歳月が過ぎ、これまで以上に人々の災害に対する在り方が問われ、防災教育の重要性が指摘されています。東日本大震災で学生や企業ボランティアが大きな役割を果たした事実を踏まえ、平成23年度より「学生等災害ボランティアリーダー育成事業」を展開してまいりました。

これまで、本県の特徴である高等教育機関の集積度の高さを活かした大学コンソーシアム石川「シティカレッジ単位互換事業」を活用し、災害発生時に即応できる学生災害ボランティアの中核的人材を育成するプログラムを実施するとともに、災害時における多様な人材やノウハウを有する企業によるボランティア活動の必要性や連携・協働などについて考えるセミナーなどを実施してきました。

今年度のシティカレッジ科目「地域と災害」では、基礎編として、専門性を有する多様な講師による講義や災害時を想定した実践型グループワークのほか、県内で活動する学生災害ボランティア団体の活動紹介を行いました。加えて、実践編では、東日本大震災の甚大な被害からの地域復興を含め、地域創生に取り組む宮城県石巻市において、復興支援に携わる方々からの講義や、現地の中学生や仮設住宅の方々との交流ボランティア等を通して、地震発生時の状況や復興の現状、人々の地域への思いや復興の取り組みについて直接的に学び、地域や災害に対する意識を強めることができました。

災害と企業ボランティアセミナーでは、災害ボランティアにおける企業への期待や知っておくべきことなど、企業としての災害ボランティア活動の普及と啓発が図られました。

今回の受講者に加え、一昨年度、この事業により組織された「石川県学生災害ネットワーク（すとりばネット）」の学生たちが、より積極的に大学の枠を超えて情報発信や相互交流を深め、本県における災害ボランティアの連携・協働が今後更に強化されることが期待されます。

【関係機関・関係者・協力者】

◇学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

- | | | |
|-------|--------|-------------------------|
| 【委員長】 | 池田 幸應 | 金沢星稜大学人間科学部教授・学部長 |
| 【委員】 | 八重澤美知子 | 金沢大学国際機構教授 |
| | 武山 雅志 | 石川県立看護大学看護学部教授 |
| | 田中 純一 | 北陸学院大学人間総合学部准教授 |
| | 橋場 進 | 石川県社会福祉協議会ボランティアセンター所長 |
| | 北村 裕一 | 日本赤十字社石川県支部防災ボランティアリーダー |
| | 池田 誠 | 石川県県民ボランティアセンター専務理事 |

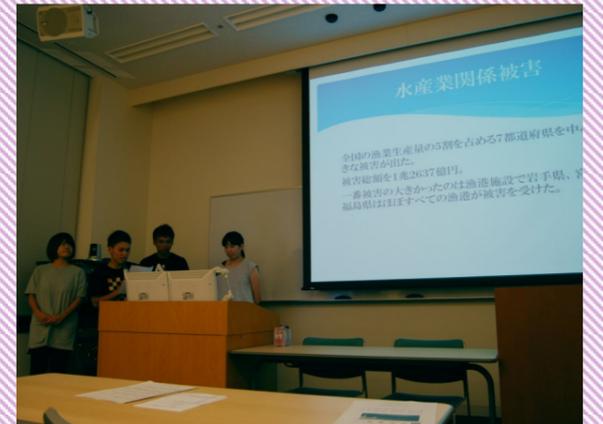
◇シティカレッジ講座

- （一社）大学コンソーシアム石川、金沢大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、北陸学院大学、
（社福）石川県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部、（公財）石川県県民ボランティアセンター
（株）Plumeria Heart

【被災地における災害ボランティア実践活動に係る協力機関・協力者】

- 石巻専修大学 山崎省一 人間学部教授・学部長、鈴木洋子 非常勤講師（門脇小学校前校長）
牡鹿中学校 増子光昭 校長、木村司 教頭、佐藤修二 主幹教諭、教員・生徒の皆様、
石巻市牡鹿稲井商工会 齊藤豊嗣 会長、桜畑仮設住宅の皆様、民宿めぐろ 目黒政明氏、目黒繁明氏、
その他民宿めぐろの皆様、石巻市復興まちづくり情報交流館、宮城県慶長使節船ミュージアム

平成27年度 学生等災害ボランティアリーダー育成事業 活動報告書



【背景・目的】

石川県内の大学では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。一方、甚大な被害をもたらした東日本大震災の被災地での活動環境は大変厳しく、とりわけボランティアリーダーには不眠不休と言っても過言ではない活動が求められ、石巻市では20～40代がボランティアリーダーの中心となっていました。

こうした現状の上で、地域防災力のさらなる向上を考えていくため、「若者」「顔の見える関係」をキーワードとし、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内の各大学や企業、NPOと県民ボランティアセンター、県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるためのきっかけとなることを目指して、学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会を組織し、平成24年度から本事業を実施しております。

平成28年2月

実施主体：（公財）石川県県民ボランティアセンター 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会 石川県立看護大学

問合せ先：（公財）石川県県民ボランティアセンター 金沢市香林坊2丁目4番30号香林坊ラモーダ7階

TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 E-mail e130500a@pref.ishikawa.lg.jp

①シティカレッジ講座「地域と災害」

災害ボランティア活動における若手のリーダー的存在となる人材を育成するため、大学コンソーシアム石川のシティカレッジ単位互換事業を活用して、講義や実践活動、グループディスカッション等の講座を実施しました。

【概要】

開催方法：大学コンソーシアム石川のシティカレッジを活用(単位互換事業)

提供大学：石川県立看護大学

講師：池田幸應教授(金沢星稜大学)、八重澤美知子教授(金沢大学)、武山雅志教授(石川県立看護大学)、田中純一准教授(北陸学院大学)、茂尾亜紀氏(石川県社会福祉協議会)、北村裕一防災ボランティアリーダー(日本赤十字社石川県支部) 兼氏浩子氏(株式会社 Plumeria Heart 代表取締役)、池田 誠(県民ボランティアセンター専務理事)

学生協力団体：金沢星稜大学 学生赤十字奉仕団、金沢大学 能登見守り・寄り添い隊 灯、

石川県立看護大学 災害ボランティア・サークルふたば、北陸学院大学 よりそいの花、すとりばネット

受講生：金沢星稜大学、石川県立看護大学から14名

【講座内容】

回数	授業テーマ	内容・講師
基礎 第1回 (4月24日)	災害ボランティアについて学ぶ	ボランティアの基礎について取り上げたうえで、災害ボランティアについて学んだ。 [講師] 池田幸應教授、茂尾亜紀氏
基礎 第2回 (5月8日)	被災地の状況について学ぶ	能登半島地震や東日本大震災、最近の災害などについても学ぶとともに、災害弱者から見た災害を学んだ。 [講師] 田中純一准教授、八重澤美知子教授
基礎 第3回 (5月22日)	災害のフェーズについて学ぶ	避難所から仮設住宅へ、ニーズ、被災者のメンタルなど様々な切り口のフェーズについて学んだ。 [講師] 武山雅志教授、北村裕一防災ボランティアリーダー
基礎 第4回 (6月12日)	県内の災害支援について学ぶ	県地域防災計画、県ボランティア本部の取り組みの紹介、及び県内学生団体の活動紹介を行った。 [講師] 池田誠専務理事、県内の学生ボランティア団体
基礎 第5回 第6回 (6月27日)	災害時に役立つ実践力を身に付ける	車椅子利用者の立場から見たボランティアについて学ぶとともに、土のう袋の結び方や震災食体験、身近な道具と材料でできる応急処置等についての学習・実習を行った。 [講師] 兼氏浩子氏 北村裕一防災ボランティアリーダー
基礎 第7回 (7月10日)	避難所運営を考える	基礎で学んできたことを踏まえて、実際の避難所運営について、「避難所運営ゲーム(HUG)」を行い、実践的に学んだ。 [講師] 田中純一准教授
実践 第1回 (8月7日)	被災地での実践活動に向けて	実践活動を行う被災地について、学生によるテーマを定めた事前学習のグループ発表や被災地での活動における注意事項などの説明を行った。 [講師] 全講師
実践 第2回 ～ 第6回 (9月6日～9日)	東日本大震災被災地における実践活動	東日本大震災被災地において、被災者の方々と交流活動や被災地の現状についての視察を行った。なお、被災地での活動は、石巻専修大学山崎省一教授の協力を得て実施した。 [講師] 全講師
実践 第7回 (9月25日)	きずなフォーラムの開催	学生による被災地での実践活動の発表や、「災害ボランティアにおける学生と地域の関わり方」について、パネルディスカッションを行った。 [講師] 全講師

【受講生の声】

- ・災害が起きることで、地域の弱点が顕在化するという点が興味深く、平時からの地域のコミュニケーションや備えが重要だと感じた。
- ・受身の姿勢でいるのではなく、自分から積極的に様々な情報を集めて、できることから一つ一つ始めていきたい。
- ・災害ボランティアでは、現地に負担をかけないことや、その人の表面だけを見るのではなく背景を考えることの大切さを学んだ。
- ・4年経ったという事実だけに目が向けられ、「復興は進んでいるだろう」という勝手なイメージが、どれだけ被災者の方々に孤独にさせているのだろうと考えると胸が痛くなった。
- ・時間の経過とともに被災者の方々の心理に変化が生まれるので、心理状態に合った多面的なケアが大切だと学んだ。

②東日本大震災被災地における実践活動

災害ボランティアに対する意識を高め、理解を深めるために、実際に被災地を訪れ、状況を直接見聞きたり、現地の方と交流したりする活動を、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市で行いました。

【概要】

日程：平成27年9月6日(日)～9日(水) [車中1泊・2泊3日]

行先：宮城県石巻市

移動：小型バス1台(現地での移動時にも使用)

参加者：11人

活動内容：大学、中学校、商工会、民宿など多岐にわたる立場からの話のほか、仮設住宅の住民の方や被災地の中学生との交流活動を実施。参加者は一日ごとに活動の共有を行い意見交換を行った。

宿泊：民宿 めぐる

連携協力：石巻専修大学山崎省一教授の協力を得て実施

その他：参加者本人及び未成年者の保護者より同意書を提出 国内旅行傷害保険に加入

【スケジュール】

日時	活動内容
9月6日(日) 23:00	石川県庁出発
9月7日(月) 7:00 9:30 11:50 13:30 15:00 17:00	石巻市到着 石巻専修大学 講義「東日本大震災～その時学校は～」 石巻専修大学非常勤講師(門脇小学校前校長) 鈴木洋子氏 旧門脇小学校 見学(鈴木前校長解説) 石巻市街 散策(石巻市復興まちづくり情報交流館など) 旧大川小学校 見学 一日目活動の共有・意見交換 (宿泊：民宿めぐる)
9月8日(火) 9:30 10:00 11:00 16:30 17:10	桜畑仮設住宅の住民へのお茶会参加呼びかけ 桜畑仮設住宅集会所でお茶会 ・仮設住宅及び地域住民との交流 牡鹿中学校 ・講義「教員という立場で被災して」 牡鹿中学校防災主幹教諭 佐藤修二氏 ・生徒によるソーラン踊り披露 ・生徒との交流活動 講話「被災当時と現在のボランティアについて」 民宿めぐる前代表 目黒政明氏 二日目活動の共有・意見交換 (宿泊：民宿めぐる)
9月9日(水) 8:30 9:40 11:10 13:00 22:00	講義「被災から現在までの道のり」 石巻市牡鹿稲井商工会会長 斉藤豊嗣氏 三日目活動の共有・意見交換 きずなフォーラム打合せ 宮城県慶長使節船ミュージアム(サンファン館) 見学 石巻市出発 石川県庁到着



門脇小学校の鈴木前校長から、日頃の訓練の大切さやリーダーの判断方法を学んだ。



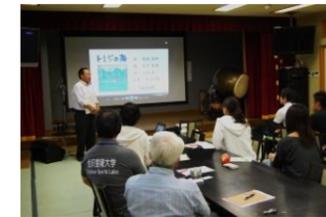
石巻市復興まちづくり情報交流館にて、東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗や地域における街づくりの取り組みについて学んだ。



桜畑仮設住宅でのお茶会にて、住民の方との交流を通じて、震災当時の様子や仮設住宅での暮らしぶりについて学んだ。



牡鹿中学校にて、力強いソーラン踊りを披露してくれた生徒のみなさん。



牡鹿稲井商工会の斉藤会長から、津波のときの体験談や被災直後の街の様子や生活について学んだ。



斉藤会長の津波体験談を基にした絵本『トミジの海』

【受講生の相互ネットワーク】

シティカレッジ講座や被災地での実践活動をきっかけに、受講生同士が災害又は防災に関するボランティア活動を行うため、平成25年12月4日に大学の枠を超えたネットワーク「石川県学生災害ボランティアネットワーク(通称「すとりばネット」)を立ち上げました。学生が中心となり、学生ならではの視点で災害ボランティア活動の連絡調整や普及・啓発などの取り組みを行い、本事業の研究会委員や県民ボランティアセンターがサポートしていきます。